

県内のスギ林はほとんどが人工林で、1960年代から70年代半ばに盛んに植林された。現在、植林後40～50年を経過しており、利用適期を迎えた森林が増えている。この

未来を開く

青森産技センター報告

—46—

豊富な資源を利用することは地域経済にとって有益であり、県産材を使って学校を建てたいという地産地消のニーズも高い。
県産材で学校をはじめ大きな公共建築物を建てる場合、

学校建設に県産材

製材過程で強度測定



【写真上】木材の強度を測定する作業員
【同下】学校建築に使われる県産材

安全・品質確保へ選別

一般の住宅建築に比べて仕様が細かく定められている。具体的には、公共建築の部材構造に用いる製材品に国などが定めた技術的な基準等があり、強度や含水率等で一定の

品質の確保が求められる。製材品は鉄やコンクリートなどと違って、同じ樹種、同じ寸法であっても強度にバラツキがある。安全性や品質を確保する観点から、県内の製材工場が強度や含水率等の規格に合う製材品をつくり、かつ必要量を供給することが大

きな課題となる。このように公共建築に用いる製材品にはいろいろな制約があるが、最も重要な要素は強度だ。林業研究所では、丸太の段階で強度を測定して予備選別した上で、品質を確保した製材品を効率的に生産する強度選別の方法を研究している。

丸太から粗挽き製材、人工（林業研究所森林資源部 上野文明）

このように

丸太から粗挽き製材、人工

乾燥、仕上げ製材の各過程で強度を測定し、そのデータを基に、製材前の丸太の中から強度が高いものだけを選別する方法である。強度は木材をハンマーで打撃し、その音固有振動数で測定した。打撃音が高ければ高いほど、強度が高いという性質を利用した手法だ。